きらこの"eye"

なんでしょう。この美しいフォルム
千葉工業大学が開発したCanguRoです。

千葉工業大学未来ロボット技術研究センター（fuRo）が開発した次世代モビリティー「CanguRo（カングーロ）」が国際デザイン賞コンテストでプラチナ賞受賞。

「機械と人間の新しい関係」として注目されています。

（次ページ参照）

まちが好き　ひとが好き　KIRACO（きらこ）　2022年1・2月号

目次

○千葉工業大学が開発した次世代モビリティー …2
○千葉市動物公園ガイドブック …6
○独断独語独り言 …10
○楽しみ方いろいろ谷津干潟 …12
○一鶴遺産　田辺鶴遊 …14
○習志野ソーセージ物語 …16
○ならしの探訪 …18
○小悪魔の小辞典 …20
○女の四季(二)四　吉成庸子 …22
○好きですこの店 …24
○湊町暮らし　大野一敏 …26
○オービックシーガルズ通信 …28
○みんなで楽しむ「不思議の科学」種市　孝 …30
○おばあさん記念日 …33
○インフォメーション …34
○漢字を楽しむ　小山光一 …40
○真嶋ひろみのお料理大好き …42
○エッセイ　中田芳子 …44
○表紙のことば …46
・表紙・　ちぎり絵
みんなを守る獅子の舞
花の実園　アートグループ

千葉工業大学（習志野市）の未来ロボット技術研究センター（ｆｕＲｏ）が開発した次世代モビリティー「ＣａｎｇｕＲｏ（カングーロ）」が世界最高峰とされるイタリアのＡダッシュ・国際デザイン賞コンテストでプラチナ賞を受賞。

そのほかにも海外でいくつもの賞を受賞しています。

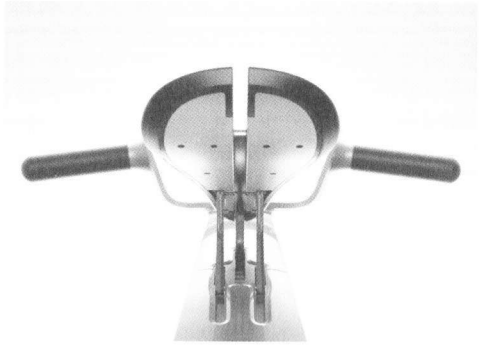
プラチナ賞は「車両・移動性・輸送デザイン賞部門」で与えられたもの。

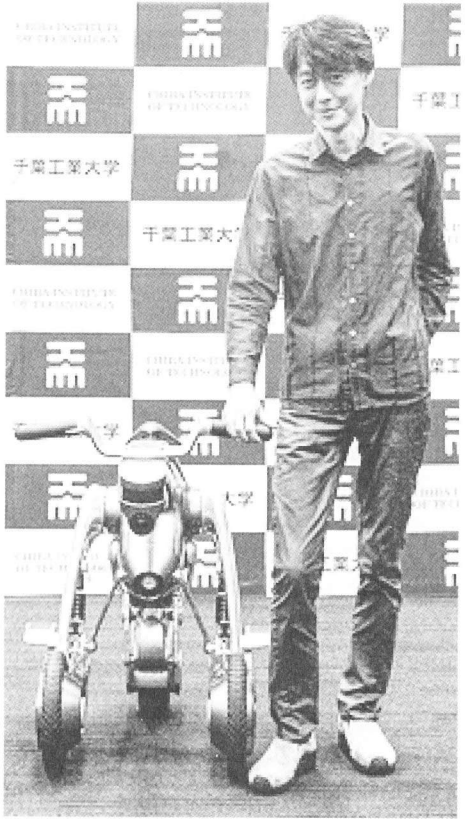
各部門で一つだけ選ばれる最高の賞です。

受賞理由は、ロボットから乗り物へと自動変形するCanguRoによって「人工知能の時代における機械と人間の新しい関係が生まれた」とされ、「より良い未来のための優れたデザイン」と高い評価を受けました。

２０１０年から毎年４月、受賞作品が発表される世界最大規模のこの国際デザイン賞、今回は１０４のデザイン分野で１０８か国、２０９４人の受賞者が選ばれました。

賞は各部門、プラチナ賞を最高に、ゴールド、シルバー、ブロンズ、アイアンと五つの賞が贈られます。特にプラチナ賞は各部門で一つずつしか選ばれません。





著名な科学者、経済学者、ジャーナリスト、芸術家らが一年間、厳しく審査します。その厳格さでも有名で、デザインの質と完成度の高さを表す国際的な指標となっています。

賞の最大の特徴は「未来はアート、デザイン、テクノロジーによって形作られる」という考え方に基づいて「未来を育むアート、そして未来の文化のためのアートを選ぶ」こと。

そのため、ミラノ工科大学の博士論文の提言を基に、作品展示会場や紹介本の出版、販売サポートなどを行う組織が用意されています。

また、華やかな授賞式は毎年、イタリアのコモ湖畔で行われています。

ドイツのデザイン賞も

「カングーロ」は、ドイツ発のこれも世界的に権威のあるデザイン賞「アイエフ・デザイン賞２０２１」の「プロフェッショナル・コンセプト部門」でも受賞。世界52カ国地域から集まった約１万件の応募デザインの中での受賞で「人工知能の時代における機械と人間の新しい関係が始

まった」と高い評価を受けました。

ついてくる乗り物知能ロボ

デザインの美しさもさることながら「カングーロ」は自動車としての知能を備えた変形ロボット車両であるということ。

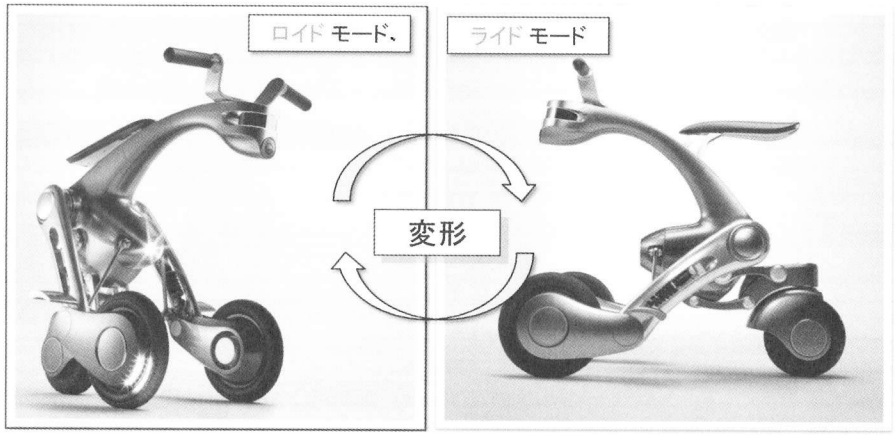
この高度なロボット工学とAIテクノロジーを搭載した3輪ロボットは、独立しているがフレンドリーなパートナーであり、スマートフォンのコマンドを介して自律的にドライバーのもとに移動し、パートナーが歩くときは、後を追いかけることができるのです。

人間と機械の一体感が期待できるこの賢い、かわいい「カングーロ」。

このまちにとけ込んで、活躍する日が待ち遠しいです。

千葉工業大学が開発した次世代モビリティー「CanguRo（カングーロ）」

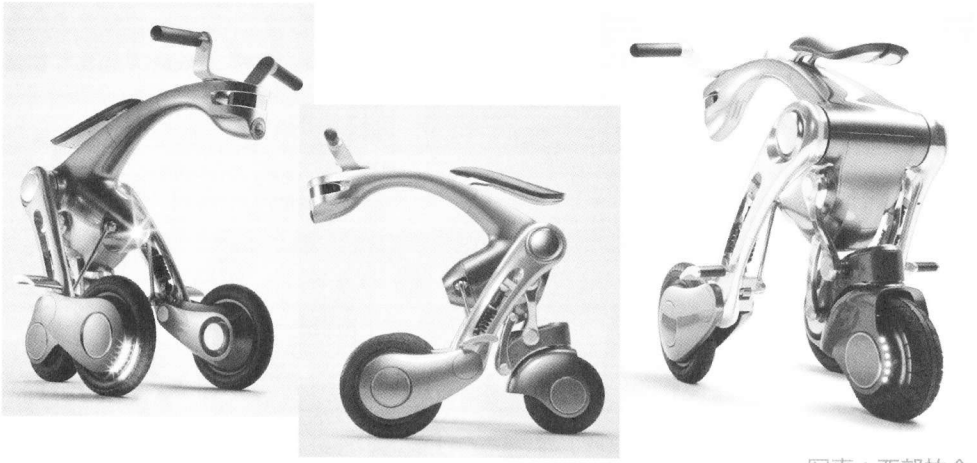
RidRoid：シーンに応じて変形する「未来のパートナー」



生活を支援する“パートナー”	乗り物として、走る爽快感
・買い物支援（“自走式カート”） ・呼ぶとやって来る ・“相棒”	・人機一体の操作感 ・身体拡張機能
AI, 知能化技術で“魅せる”	**走りとロボット技術で“魅せる”**

「CanguRo（カングーロ）」はイタリア語で「カンガルー」。
乗り物とロボットとの融合を目指す「RidRoid」（ライドロイド）シリーズと位置づけられています。

RidRoid　ロイドモード（ロボット）



写真：西部祐介

RidRoid　ライドモード（乗り物）

写真：西部祐介

千葉工業大学未来ロボット技術研究センター（fuRo）がインダストリアルデザイナーの山中俊治氏とともに開発したのが「CanguRo（カングーロ）」です。

fuRo の古田貴之所長は「パーソナルモビリティーを超えた真の人機一体・AI 時代の人間のパートナー」と語っています。